論　文　ニダバ (*Nidaba*) 34(2005), 105-114

日本文学作品に見られる擬態語・擬音語の日英語対照研究

森　下　峯　子

1. はじめに

擬態語・擬音語を研究するにあたり、擬態語・擬音語の音と意味の関係を考えてみる。言語は、人間が意志や感情を伝えるために用いる、音声を中心とする意味をもった記号の体系である。言語の音と意味の関係は、恣意的(arbitrary) である。擬態語・擬音語の場合英語の'bowbow'や日本語の「わんわん」などの擬音語においては自然の音を模していて、音と意味との関係は恣意的でない。「シーンとした部屋」「雨がしとしと降る」の中の擬態語「シーン」、「しとしと」も事物から受ける印象と言語の中から似通った音とを結び付けたものである。

ソシュール（F. de Saussure）は、言語を内容面である概念（犬）と表現面である聴取的イメージ（/dɔg/)とが恣意的に結合したものとして記号学の対象とした。金田一（1982:135-36)は、「擬音語・擬態語では、必然的と言えないまでも、音と意味との間にある程度合理的な結び付きがある。ソシュールはそういう点からみて、擬音語・擬態語を感動詞とともに、言語の中で特別のものとしている。」と言う。金田一はこのことが擬音語において、ことに著しく、他国の語にも良く似た音の組合せのある鶏の鳴き声(1a)と、日本語にはピューリタンなど外来語にしかない風の音を表す特別な音の例(1b)を挙げている。

(1) a. コケコッコー（日本語）cock-a-doodle-doo（英語）kikeriki（独語）coquerico　（仏語）
　　ククミー（中国語）　コッキョー（朝鮮語）　b.　ピューピュー

(1b)/pjU/ という音素の集まりは意味、ここでは風の音を表す形態素であると表現できる。井上(1999:17) は、単語の最小意味に一定の音が連合している要素、形態素の音は言語によって異なっていて、ことばの恣意性（arbitrariness）は各言語の形態素の特徴であると言っている。従って、それに擬態語・擬音語も含まれている。

本論では日本文学作品に見られる擬態語・擬音語の日英語を比較対照する。擬態語・擬音語の恣意性のなさは自国の文化、社会の規範に支えられ、言語特有の音声条件に従って、一般的というよりも、類似性はあるもののむしろ世界の言語の記号体系は違っている。

ただし社会的に通用する言語である以上、慣習的に認められた形を習得するものなので、擬態語・擬音語も恣意的言語の一部と言うこともできる(鈴木 1984: 161)。

次に日本語と英語のどういうものが擬態語・擬音語であるかという問題である。①田守・スコウラップ(1999 : 210) によれば、「ちょっと」「ゆっくり」という語を日本語話者は伝統的な擬態語・擬音語という範疇に属していると感じていない。②擬態語、擬音語との区別はするが、どちらとはっきり分けられないような語が多い(「おんおん(泣く)」など)。③語の統語的特徴としては、日本語の場合は擬態語・擬音語が動詞を修飾する副詞として、英語の場合は動詞や名詞として機能している場合が多い。④「カルガル」「クログロ」などは「軽い」、「黒い」などの形容詞を繰り返すとき連濁が起こる様態の副詞であるが、ふつう擬態語・擬音語に含めない。

2. 日本文学作品に見られる擬態語・擬音語とその英訳の対照

日常会話で接する擬態語・擬音語は、話し手の表情や身振りから、より生き生きとどんな音か有様かがわかる。文学作品を読むとき、擬態語・擬音語がどのようなことを表そうとしているのかを前後の文脈や類似語から類推してつかむことは文章を理解する上で大切である。

ここでは日本文学作品における擬態語・擬音語を比べるのに同量のページを読むことにする。第一に、川端康成の中編小説『伊豆の踊子』を一冊、ザイデンスティッカーの英訳と比較対照しながら読み、訳し方の違いを見ながら、擬態語・擬音語を取り出す。次にその同量をほるぷ出版の『雪国』(川端康成)、『我輩は猫である』(夏目漱石)、『金閣寺』(三島由紀夫)、『こころ』(漱石)、『山椒大夫』(森鴎外) から、擬態語・擬音語を取り出す。『雪国』は同じくサイデンスティッカー、『我輩は猫である』はウィルソン、『金閣寺』はモリスの各英訳を読み、日本語の擬態語・擬音語がどのように訳されているか調べる。向田邦子の『源氏物語』を読み同様にする。童話の『銀河鉄道の夜』(宮沢賢治)を英訳と比べながら、同様に調べる。

次の(2)Table1～(7) Table 6は、各作品の擬態語・擬音語を取り出したものである。擬態語・擬音語を見出しに何ページに出ていたかを記し、擬態語・擬音語の意味合いを考察し、その英訳と各例文を載せている。(8)Table 7～(9) Table 9は擬態語・擬音語の少ない作品のデーターである。(2)Table1～(9) Table 9の統計である(10)Table 10を見ると、擬音語より擬態語が多いことや、擬態語・擬音語の作品へ現れる頻度が作品の特徴によって違うことがわかる。また、同一の作家も作品のテーマにより擬態語・擬音語の頻度が違っている。擬態語・擬音語が作家の作品へどのように影響しているのかを見てみたい。擬態語・擬音語を通しての作家の文体を探ってみよう。(2)Table1、(3)Table 2は川端、(4)Table3は漱石、(5)Table 4 は三島、(6)Table 5は阿部公房、(7)Table 6は宮沢賢治、(8)Table 7は森鴎外、Table 8は向田、(9) Table 9は漱石の各作品、(10)Table 10は統計と続く。

(2) **Table 1 『伊豆の踊子』の擬態語・擬音語について**

ページ　ページ　『伊豆の踊子』川端康成　/ *The Izu Dancer*　E.サイデンステッカー訳 原書房

13 かちかち　12 chatter　かちかちと歯を鳴らして身顫いした。　My teeth were chattering ...
いらいら　fret on　炉の傍でいらいらしていた。　I fretted on beside the fire.
15 よろよろ　14 hobble　よろよろした足取りが迷惑でも会った。　...her hobbling only held...
17 ぽつぽつ　16 ___　四十女もぽつぽつ私に話しかけた。The older woman presently joined in the conversation.
21 ぶるぶる　20 clatter 手をぶるぶる顫わせるので茶碗が茶托から落ちかかり...the teacup clattered in its saucer.
ぽきん　___　空想がぽきんと折れるのを感じた。　I felt the excitement...begin to mount.
23 ととんとんとん　22___　ととんとんとん、...太鼓の響きが微かに生れた。...I heard the slow beating of a drum.
25 ぴた　24 complete　そして、ぴたと静まり返ってしまった。　And then complete silence.
27 ぼんやり　26 ___　湯気の中に...裸体がぼんやり浮かんでいた。...naked figures showed through the steam.
ほうっと　___　...ほうっと深い息を吐いてから...
ことこと　happily　...ほうっと深い息を吐いてから、ことこと笑った。...I laughed happily.
ことこと　soft, happy　ことことと笑い続けた。　I laughed on a soft, happy life.
35 しっかり　34 really well　...女房はまだ体がしっかりしないんです。　...she isn't really well yet.
39 だんだん　38 soon　...だんだん我を忘れて...　...she soon forgot herself an
ぱっ　flush　突然、ぱっと紅くなって、　Suddenly she flushed crimson.
41 きらきら　40 bright　眼をきらきら輝かせて...瞬き一つしなかった。...with her eyes bright and unblinking.
43 きちん　42 ___　踊子は...きちんと座って太鼓を打っていた。　She knelt beside the drum,...
ざらざら　casually　踊子は...五十銭銀貨をざらざら落とした。　The dancer casually dropped fifty sen...
45 むっつり　44 uncomfortable　いつも私の前でむっつりしていた。　...seemed uncomfortable before me.
49 とっとっ　48 with tiny little steps...とっとっと私について来るのだった...came after me with tiny little steps.
ぽつりぽつり　would　...ぽつりぽつりいろんなことを聞いた。　...she would take up again...
51 こつん　50 ___　こつんと膝を落した。　She fell to one knee.
かさか　rush　枯葉がかさかさ鳴る程静かだった。The dead leaves rushed as they landed, so quiet was the air.
べんべん　tap ... a couple of times.　私が指でべんべんと太鼓を叩くと小鳥が飛び立った。
I tapped the drum a couple of times with my finger, and the birds started up in alarm.
53 ゆっくり　52 ___　下りは私と栄吉とがわざと後れてゆっくり話しながら出発した。
On the way down I purposely stayed behind talking to Eikichi...
57 ちょこちょこ　56 dart　...ちょこちょこ部屋へ入って来た宿の子...　...the inn children, who darted in and out.
59 ぐったり　58 tired　千代子は...蒼い顔でぐったりしていた。　Chiyoko, pale and tired, lay...
61 ぽたぽた　60 weep　わけもなく涙がぽたぽた落ちた。　For no very good reason I found myself weeping.
63 こくりこくり　62 a quick little nod　何度となくこくりこくりうなづいて...
Now and then she would nod a quick little nod...
65 ぽろぽろ　64 silently　涙がぽろぽろカバンに流れた。I wept silently.
67 ぽろぽろ　66 drop by drop ...それがぽろぽろ零れ、その後何も残らないような甘い快さだった
...it was falling pleasantly drop by drop; soon nothing would remain.

(3) **Table 2『雪国』の擬態語・擬音語について**

ページ　ページ　『雪国』川端康成 新潮社　/ *Snow Country*　Edward G. Seidensticker 訳 Tuttle

5 ゆっくり　3slowly　ゆっくり雪を踏んで....　The station master walked slowly over the snow...
6 ごろごろ　5 ___　それでごろごろあすこにぶっ倒れているのさ。　...they're over there in bed.
さっさ　short　さっさと寒い立話を切り上げたらしく...turned as if to cut the freezing conversation short.
8 はっきり　7clear ...　はっきり思い出そうとあせればあせるほど The more he tried to call up a clear picture...
すっかり　over　ガラスがすっかり水蒸気に濡れているから...The mirror had been clouded over with steam...
9 ぴったり　8 tight　それを鼻の下にひっかけて口をぴったり覆い.....pulled up tight over his mouth...
10 ぼうっ　10 unformed　なにかぼうっと大きい感情の流れであった...
it seemed to flow along in a wide, unformed emotion.
11 ぼうっ　10 ___　小さい瞳のまわりをぼうっと明るくしながら...
As it sent its small ray through the pupil of ...eye...
12 すっかり　12 ___　へい、もうすっかり冬支度です。　We're ready for the winter.
13 しいん　12 quietly　村はしいんと底に沈んで... ...., as if everything had sunk quietly into the earth.
すっ　13 clear　...頭のしんまですっといちどきに通って　...but it cleared to the middle of his head ...
15 はっ　14 start　...その裾を見てはっとしたけれども... He started back as he saw the long skirts...
じっ　15 still　じっと動かぬその立ち姿から彼は遠目にも...受け取って
From the distance he caught...in the still form.
16 ふふ　16 softly　女はふふと含み笑いしながら...　...she laughed softly.
17 きちん　18 on careful propriety ...やわらかい単衣をむしろきちんと着ている方であった。
...she wore her soft, unlined summer kimono with an emphasis on careful propriety.
19 ぷい　20abruptly...女はぷいと窓へ立って行って...She stood up abruptly and went over to the window ...
くるっ　turn sharply「ほんとうよ。」と、くるっと向き直って...“It's the truth.” She turned sharply to face him,
さっぱり　not have the wrong ideas　頭がさっぱりしないんだ。　I keep having the wrong ideas.
20 からっ　20 would like to ...からっとした気持ちで話ができやしない。I can't ...talking ...the way I would like to.
ほうっ　21 ___　その伏目は濃い睫毛のせいか、ほうっと温かく艶めくと...女の顔は...
Perhaps it was the rich lashes of the downcast eyes that made her face seem warm and sensuous.
ぼんやり　not too quick　...のがいい。ぼんやりしていて、よごれていないのが。Clean, and not too quick.
さっぱり　so well　君とさっぱりつきあいたいから..... want to be friends with you that I've behaved so well?
23 ふいと　24 abruptly　彼はふいと西洋舞踊に鞍替えしてしまった。
He abruptly switched to the occidental dance.
26 むっつり　29 glum　島村がむっつりしているので...　He lapsed into a glum silence.
27 くるっ　sharply around ...くるっと振り向きざま...　...he turned sharply around...
ふい　30 ___　女はふいとあちらを向くと...　へゆっくり入った。She turned and walked slowly into...
ゆっくり　slowly　杉林のなかへゆっくり入った。　She turned and walked slowly into the grove.
28 しいん　quietly　しいんと静けさが鳴っていた。　The stillness seemed to be singing quietly.
じっ　31 gaze　...川を女はじっと眺めていた。　She gazed down at the river, ...
29 むっ　scorn　女はむっと嘲るように言ったけれども...　There was scorn in her voice...
すっ　32 sweep through　なにかすっと抜けたように涼しい姿だった。
Something from that cool figure had swept through him from under the cedars.
30 ぱたり　33 ___女が...ぱたりと投げこまれたように.....she fell into his room as if someone had thrown her.
ごくごく　in great gulps ...ごくごく水を飲んだ。　... and drank in great gulps.
ふらふら　uncertainly　頭をふらふらとさせながら...　Her head waves uncertainly.
31 ぐらり　34 heavily　...そのまま島村の體へぐらりと倒れた。　... and fell heavily against him.
ぐたり　collapse　...女はぐたりとした。　...she threatened to collapse.
34 こまごま　38 all　...こまごまと身の上などを話した。　She threatened him all about himself.
ぽうっ　a little bashfully ...今度はぽうっと微笑んだ。　She smiled a little bashfully.
35 ふっ　39 ___　女がふっと顔を上げると...　The woman raised her head.

36 むっ　39 a little stiffly　女はむっとしてうなだれると…　When she bowed her head, a little stiffly...
38 じっ　41 solemnly　…しかしじっと島村を見つめていた。　She gazed solemnly at Shimamura, however.
40 ごろんごろん 43 from side to side …體をごろんごろん転がして…　…she had rolled from side to side.

(4)　**Table 3 『吾輩は猫である』の擬態語・擬音語について**

ページ　ページ　『吾輩は猫である』夏目漱石　岩波文庫 / *I Am a Cat.* (Tuttle) Ito &Wilson

3 ニャーニャー 21 miaow　何でも…ニャーニャー泣いてた…　All I remember is that I was miaowing ...
スー　lightly　ただ彼の手のひらに載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じが有ったばかりである。
フワフワ　floating in the air I simply felt myself floating in the air as I was lifted up lightly on his palm.
つるつる　bald　顔がつるつるして…　...the face ... is as bald as a kettle.
ぷうぷう　22 in little puffs　…ぷうぷうと煙を吹く。　...smoke comes out in little puffs.
4 どさり　22 a thud　…どさり音がして眼から火が出た。　I heard a thud and saw a million stars.
のそのそ　(crawl) about　…のそのそ這い出して見ると…　...I began to crawl about.
ニャー,ニャー 23 feeble mewing　…ニャー,ニャーと試みにやって…　...I tried some feeble mewing.
さらさら　light　その内池の上をさらさらと風が渡って…　Soon a light wind blew across the pond and ...
そろりそろり　very very slowly…そろりそろりと…廻り始めた。　...I turned, very very slowly...
9 ブーブー　29(hideous noises) バイオリンをブーブーと鳴らしたり……making hideous noises with a violin.
11 むづむづ　32 pins and needles　身内の筋肉がむづむづする。
The musltes in my body are getting pins and needles.
のそのそ　pad around　…のそのそ這い出した。　I might as well pad around .
13 きらきら　34 glossy　…きらきらする柔毛…　...her glossy fur...
ばらばら　patter　ばらばら葉が落ちた。　...a few leaves pattered down.
14 ぐるぐる　37 (creep) around…茶畠をぐるぐると廻ってねえで…
...instead of creeping around in a tea plantation...
15 ぴん　stiffly　黒は鼻の先からぴんと突っ張っている長い髭をぴりぴりと震わせて非常に笑った。
ぴりぴり　(quiver) Blacky laughed immoderately, quivering the long wiskers which stuck out stiffly round his muzzles.
ころころ　(purr)　咽喉をころころ鳴らして謹聴して居れば　... As long as you purr and listen attentively...
ふん　really　「ふん」と感心して見せる　"Really?" I make myself look impressed.
20 けらけら　44 ____　けらけら笑っている。　... he gave himself to laughter
25 フン　51 hmm　フンと言いながら…　... said "hmm."
チリン　52 tinkle-tinkle ting-ting　格子がチリン、チリン、チリチリチリンと鳴る
...the gate-bell sounded: tinkle-tinkle, possibly even ting-ting.
26 エヘヘヘ　53 ____　「えへへへ、少し違った方角で…」　"As it were indarious directions,"
ぽろり　flop　ぽろりと歯が欠けましたよ。　... a tooth just broke off flop.
ぽかぽか　54 twice　自慢そうに頭をぽかぽかなぐる　... proudly smacks me twice upon the head...
ちょい　54 a little　一昨夜もちょいと合奏会をやりましてね
The night before last, what's more, we had a little concert.
27 ふん　Ah　「ふん、そして其の女というのは何者かね」　"Ah, and who were the women? "
ちょっ　partially　必ずちょっと惚れる　invariably fell partially in love with...
28 ぶらり　56 (saunter out)　…ぶらりと出る　...he saunters out...
ちょっ　____　吾輩はちょっと失敬して…が食い切った蒲鉾を…
I took the liberty of eating such ...
30 にやにや　60 giggle　顔を見合わせてにやにや笑う　exchange looks and giggle
31 ちょっ　60 indeed　ちょっとえらい所がある。　... he would indeed be worthy of praise.
そわそわ　61 a trifle fidgety　寒月は何となくそわそわして居る如く見えた
Coldmoon , however, seemed to have become a trifle fidgety.
32 ちょっ　62 a last flash　今朝癇癪がちょっとここへ尾を出す。　...in this entry one can see a last flash of this morning's ugly mood.
32 ぐうぐう　62 grumble　腹がぐうぐう鳴るばかりで…　...the only effort was to make my stomach grumble.
33 どぼりどぼり 63 heavy plopping　腸の中でどぼりどぼり音がして　My bowels gave forth heavy plopping noises
34 ちょっ　65 all the more　ちょっと滑稽だ。　It's all the more amusing.
ちょっ　____仮定法　吾輩もちょっと雑煮を食ってみたくなった。　I could have eaten those cakes myself.
36 ねばねば　68 sticky　餅の上皮が引き掛かってねばねばする。　My claws, having touched the outer part of the rice-cake, become sticky.
37 あぐり　69 deep　…あぐりと餅の角を一寸ばかり食い込んだ。
I bit about an inch deep into a corner of rice-cake.
37 ぶくぶく　deeper　ぶくぶく深く沈む　the deeper in he sinks.
38 ぐるぐる　69 about　尾をぐるぐる振って　I lashed about with my tail.
むちゃくちゃ 70 like mad　むちゃくちゃに顔中引っ掻き回す　I scratch away like mad at my whole face.
39 げらげら　72 good old　そうして皆んな申し合わせた様にげらげら笑っている。
... by general agreement the whole household is having a good old laugh.
40 ぐい　yank　餅をつかんでぐいと引く　took a firm grip on the rice-cake and yanked it out of my mouth.
けろけろ　73 come to myself　…けろけろとあたりを見廻した時には…
When at last I came to myself and looked around at a world restored to normality.

(5)　**Table 4 『金閣寺』の擬態語・擬音語について**

ページ　ページ　『金閣寺』三島由紀夫　新潮社 / *the Temple of the Golden Pavilion.* (Tuttle) Ivan Morris

7 じたばた　5 struggle　私がじたばたしているあいだ　while I was struggling to free myself
じたばた　try　じたばたしている小鳥　a bird that is trying
9 まじまじ　(stare)　私はだまったまま、まじまじと彼を見つめた…　...I stared at him without a word.
すらすら　7 smoothly　言葉はすらすらと流れ、　The words flowed out smoothly.
しん　8 silent　皆はしんとした。　Everyone was silent.
11 どん　more and more　孤独はどんどん肥った、まるで豚のように
My solitude grew more and more obese, just like a pig.
12 ちょっ　10 even a little　ちょっと目を動かし,ちょっと口を動かせば
If she had moved her eyes or her mouth even a little...
ちょっ
20 うとうと　18 doze off　知らぬ間に私はうとうとしていた。　I dozed off.
21 じっ　20 steadily　じっと物静かに座っていた。　Rested quietly and steadily...
23 むっ　22 mercilessly　そのむっとする煙のために　...the smoke poured in mercilessly...
25 すっかり　24 since the time　すっかり変わっていた。　... had changed since the time...
27 すっぽり　26 entirely　この地上の世界をすっぽり呑みこんで
... it entirely swallowed up this earthly world of ours...
ぼんやり　absently　ぼんやり池のおもてを見下ろした
28 むっちり　27 plump　和尚はむっちりした指さきで…　...with his plump fingers ...
29 じっ　28 (stare)　…じっと見上げた…　I stared up...

34 ちらちら　33 reflected　燈明のちらちらする光りをうけて煌めいた…sparkled brilliantly with the reflected light of the sacred taper…
35 たっぷり　34 good　配給の油が住職の死のためにたっぷり用意されたので… Since this was the funeral of a priest, they had managed to obtain a good supply,…

(6)　Table 5『唖むすめ』『犬』の擬態語・擬音語

ジ	ジ	『唖むすめ』阿部公房 / *The Deaf Girl* A. Horvat 訳 原書房
9 ちゃん	8 exact	よく見るとそれでもひと粒ひと粒がちゃんと人間の形をしていた。 …one could see that each seed had the exact features of a human being.
11 ぐるぐる	10 round and round	地球のまわりをぐるぐる追い駆けあった… …,chased one another round and round the globe.
すっ	right	彼の中をすっと吹き抜け、… …and blow right through him…
ぽっかり	big	…吹き抜け、あとにぽっかり空洞が残された。 …blow right through him leaving a big hole in his body.
せっせ	diligently	それをせっせと埋めるしぐさが生活であったのだ。 Life was the task of diligently filling up these holes…
ちゃんちゃん	12 regularly	大男の胃袋に貢いだ彼の空虚をちゃんちゃんと埋めていく行為… the activity of regularly filling in the holes left after supplying the giant's stomach.
13 すっ	short	…すっと近よったつばめが… …swallows…out of sight after a short encounter.
ふっ	drift	…つばめが、ふっと消えてしまったりするのは …So were the swallows which too would drift out of sight…
15 じん	14 _____	そう思っただけでじんと胃酸がほとばしり… Just thinking such thoughts made his digestive acids gush forth
17 ちょっ	16 _____	…つづいて窓ぎわのちょっとした黙劇… At the window sill, a pantomime ensued.
ぽんやり	wide	…ぽんやり口を開けているのであった。 Her mouth remained wide open,…
くるくる	arooud	…つむじ風がひとつの生物のようにくるくるまわっている。 A whirlwind was circling around like some living thing…
すっかり	18 terribly	…すっかり恥入るのであった。 The girl became terribly ashamed.
19 ぽんやり	_____	…検討がつかず、ぽんやり見守っていると… Not knowing…she just kept her eyes on the wind for a while.
するり	through	…窓の隙間からするりと中に入り込むと… …it entered her room through a slight opening of the window.
21 すっかり	22 out	大男はすっかり落胆して叫んだ。 The giant cried out in despair.
25 さらっ	26 light	…むしろさらっとした感じというべきだ。 If anything it feels rather light.
29 さっ	28 suddenly	むすめはさっと顔を赤らめた。 …the girl's face suddenly turned red.

『犬』安部公房 / *The Dog*

33 ちゃん	32 particularly useful	飼い主…ちゃんとした使用上の目的… Those who raise dogs for some particularly useful purpose.
35 うろうろ	34 _____	彼女は…研究所の中をうろうろしていた。 …she still hung around the studio.
くすくす	giggle	…くすくす笑いながら、されるままになっている。 … she'd allow herself to be petted, giggling all the while.
うろうろ	aimlessly	用もないのに、うろうろして、彼女に抱きつく順番を待っている。 With nothing to do, they could hang around aimlessly.
37 ぞっ	36 shudder	ぞっとするようなセンチメンタリズムだ。 That's the sort of sentimentalism that makes me shudder,
めちゃめちゃ	mess	君らが彼女をめちゃめちゃにしてるってこと… …that you're making a mess of her?
39 くすくす	38 giggle	…くすくす笑うのだった。 …giggling all the time.
41 オンオン	40 duh,duh	オンオンだとかヴァヴァだとか、唖が口ごもった… "Duh,duh" and wails like some stammering deaf-mute
ヴァヴァ	duh,duh	…ヴァヴァだとか、唖が口ごもったようなうめき声をだし… "Duh,duh" and wails like some stammering deaf-mute were the best the dog could manage.
じっ	never take one's eyes	ぼくらからじっと眼をはなさない。 She never took her eyes off us
43 ヒィッ	42 yelp	…ヒィッと死にそうな声… …a yelp like someone about to die…
45 くんくん	44 sniff	いつもの場所をくんくんかぎまわって…She kept sniffing around the usual place…
じっ	eavesdrop	…ぼくと女房の話にじっと耳を傾けるのをみると… …I noticed the dog eavesdropping on our conversation,…
47 じっ	46	…ぼくは理性をとりもどしてじっと我慢した。…my sanity would return and I'd put up with it.
ギョロリ	sharp	ギョロリとこすっからい白眼をむいて… The dog would turn those mean, sharp eyes up toward me…
49 どんどん	48 _____	どんどん上達して、気味のわるいほど人間に似てきた。 Soon, she came to resemble people to an uncanny degree.
ちょっ	_____	…ちょっと描いてみようという気になったのだ。…, so I fell to thinking that I should paint it.
51 ほっ	50 relaxed	おれは鉛筆をおいて、ぼっとしながら、… I put my brush aside and relaxed.

(7)　Table 6『銀河鉄道の夜』の擬態語・擬音語

ジ	ジ	『銀河鉄道の夜』宮沢賢治 / *Night Train to the Stars* John Bester 訳 講談社
14 ぼんやり	15 vague	…このぼんやりと白いもの… …this vague white blur …
16 どぎまぎ	17with confusion	ジョバンニは…どぎまぎしてまっ赤に…Giovanni went bright red with confusion…
ぼんやり	vague	このぼんやりと白い銀河… …this vague white blur, the 'Milky Way,' …
18 ぼんやり	19 blur	したがって白くぼんやり見えるのです …,which is why they become a white blur.
20 ぼうっ	21 blur	その遠いのはぼうっと白く見える… …the farthest of them will show up as a white blur …
きちん	to attention	…きちんと立って礼をすると… …hey all stood to attention, bowed,…
22 ばたりばたり	23 thud	…輪転機がばたりばたりとまわり… …rotary presses were thudding round…
26 ずうっ	27 all day	わたしはずうっとぐあいがいいよ …I've been fine all day.
ゆっくり	no hurry	ああ、あたしはゆっくりでいいんだから… Yes, but there's no hurry for me.
28 むしゃむしゃ	29 hungrily	パンといっしょに…むしゃむしゃたべました。 devoted it hungrily with some bread.
30 すっかり	31 all	…缶がすっかりすすけたよ …the boiler got all sooty."
しいん	quiet	家じゅうまだしいんとしているからな」 But the whole place is always quiet, so…"
34 ぼんや	35 pale	…ばけもののように、ながくぼんやり、うしろへ引いて…long and pale behind him like a ghost…
ひらっ	slip	ひらっとジョバンニとすれちがいました …and slipped across Giovanni's path.
きいん	wail	そこらじゅうきいんと鳴くように思いました。 …a cold wind seemed to wail around him.
36 すっかり	37 out	…すっかりきれいに飾られた街を… …the town,which was decked out …
ずっ	far	…あの図よりずっと小さかったのですが… It was far smaller than the map…
ぼう	blur	銀河がぼうとけむったような帯になって……in a blurred, smoky-looking band, was the Milky Way.
38 ぎっし	39 cram	…蠍だの勇士だのそらにぎっしりいる the sky was really crammed with scorpions and warriors
ぼんやり	linger	…しばらくぼんやり立っていました。 Giovanni lingered there for a while…

40 しいん 41 hush 家の中はしいんとして誰もいたようではありませんでした。...the house was hushed, seemingly deserted.
そろそろ slowly ...ようにそろそろと出て来て... ...walking slowly, as though she had something ...
どきっ startled ジョバンニはどきっとして戻ろうとしました...Startled,Giovanni had an impulse to turn away...
42 ぼんやり 43 vaguely...向こうにぼんやり見える橋 ...the bridge that was vaguely visible in the distance.
わあわあ shout ...わあわあと言いながら... ...shouting,...
ぴょんぴょん hop around 片足でぴょんぴょん跳んでいた... ...hopping around on one leg...
わあい clamor わあいと叫びました。 ... and set up a clamor after him.
44 ぼんやり 45 vague ...ぼんやりふだんよりも低く... ...vague and seemingly lower than usual...
どんどん steadily ...どんどんのぼって行きました。 ...climbed steadily upward...
ぴかぴか gleam ぴかぴか青びかりを出す小さな虫... ...tiny insects gave out a bluish gleam ...
どかどか pant ...どかどかする体を、つめたい草に投げました。 ...threw himself down panting on the cool grass.
46 ちらちら 47 twinkle 青い琴の星が...ちらちらまたたき..... the blue Lyra constellation ...twinkled bluish...
ぼんやり blur やっぱりぼんやりしたたくさんの星のあつまり... ...a great blurred gathering of stars...
48 ぼんやりした 49 vague ぼんやりした三角標の形になって... ...the pole right behind him had turned into a vague shape...
ぺかぺか indistinctly ...ぺかぺか消えたりともったりしているのを見ました。 ... it glimmered on and off indistinctly...
すきつ up そらの野原にまっすぐすきっと立ったのです。 ..., shooting straight up into the open stretch of the sky...
50 さあっ 51 great 眼の前がさあっと明るくなって... ...a great dazzle of light before his eyes...
ごとごと clatter ごとごとごとごと、ジョバンニの乗っている小さな列車... ...the little train ...had been clattering...
52 すっかり 53 完了形 もうすっかり元気が直って... ...had already got over it...
ぐるぐる around and around 地図をしきりにぐるぐるまわして見ていました。 ...he sat twisting around and around a map...
54 さらさら 55 rustle 風にさらさらさらさら、揺られて動いて、波を立てているのでした。 ...rustled as it swayed and rippled.
ちらちら ripples ちらちら紫いろのこまかな波を立てたり... ...it set up tiny purple ripples or...
ぎらっ glint 虹のようにぎらっと光ったりしながら.....or glinted in all the colors of the rainbow ...
どきどき excitedly ジョバンニは、まるでどきどきして... Giovanni's heart beat excitedly ...
56 ちらちら 57 flicker ...ちらちらゆれたり顫えたりしました。 ...every other color fluttered and flickered...
すっかり really 「ぼくはもう、すっかり天の野原に来た」 "Yes, I'm really here in the Plain of Heaven!"
ごうごう sonorous セロのようなごうごうした声... ...a voice, a sonorous voice like a cello...
ごとごと clatter-clatter ごとごとごとごと、その小さなきれいな汽車 ...Clatter-clatter, clatter-clatter, went the pretty little train...
すっかり quite「ああ、りんどうの花が...もうすっかり秋だね」 "Look, the gentians ...It's quite late in autumn, isn't it"?"
60 ぼんやり 61 sink ...と思いながら、ぼんやりしてだまっていました。 Without replying he stayed sunk in his own thoughts.
ぱっ flood...車の中でぱっと白く明るくなりました。 Abruptly, the inside of the carriage was flooded with white light.
ぼっ vague ぼっと青白く後光の射した一つの島.....an island surrounded with a vague bluish-white light.
62 すきっ 63 clear-cut すきっとした金いろの円光をいただいて、...with a clear-cut golden halo around it
64 ぼうっ 65 blur 向こう岸も、青じろくぼうっと光ってけむり... The opposite bank too became a shining blur of silver...
さっ fleetingly...さっとその銀いろがけむって.....a shining blur of silver that would cloud over fleetingly ...
すっかり altogether...とうとうすっかり見えなくなってしまいました。 ...the island finally disappeared from sight altogether.
じっ cast down ...まんまるな翠の瞳を、じっとまっすぐに落して... ...with her round, green eyes cast down....
そっ softly ...二人もそっと談し合ったのです。 ...the two boys talked softly to each other.
ぼんやり loom ...シグナルの緑と、ぼんやり白い柱とが... ...the green light of the signal, and its white-looming pole...
ちらっ flash...ぼんやり白い柱とが、ちらっと窓のそとを過ぎ...its white-looming pole, flashed past outside,...
66 くっきり 67 exactly ...くっきり十一時を指しました。 ... pointed exactly to eleven o'clock.
がらん empty ...車室の中はがらんとなってしまいました。 ...,leaving the carriage empty and deserted.
68 きしきし 69 rasp ...砂を一つまみ...きしきしさせながら... ...a handful ...sand...and made it rasp between his fingers.
ぼんやり absently ジョバンニもぼんやり答えてしまいました。 "So there is!" said Giovanni absently, ...
くしゃくしゃ with flaws and faults ...くしゃくしゃの皺曲をあらわしたのや... ...some marked with flaws and faults...
ちらちら afire...燐光をあげて、ちらちらと燃えるように ...a phosphorescence that sparkled beautifully, as though all afire
ピカッ glint ...時々なにかの道具が、ピカッと光ったりしました。 ...occasionally there was the glint of an implement.
70 ぎざぎざ 71 gnarled 二人は、ぎざぎざの黒いくるみの実を持ちながら... Talking the gnarled black nuts with them, they went ...
72 ざっ 73 some ざっと百二十万年ぐらい前のくるみ... They're well, now-some one million two hundred thousand years old
そっくり precisely...そっくり塩水が寄せたり引いたりもしていたのだ。 The salt tides used to ebb and flow precisely ...
がらん empty ...あるいは風か水や、がらんとした空かに見えやしないかということなのだ。 ...or whether it'll look no different from the wind or the water, or the empty sky.

(8) Table 7『山椒大夫』の擬態語・擬音語

ページ	『山椒大夫』森鴎外 新潮社
36 かっ	夕日がかっと差している...
38 ぴったり	岸の石垣にぴったり寄せて... 材木が澤山立ててあります。
41 こっそり	こっそり人を留めても...
44 はっきり	自分の心がはっきりわかっていない。
51 ぼんやり	ぼんやりすわって時を過した。
62 ずんずん	妾壽は先に立ってずんずん登ってゆく。

Table 8『源氏物語』の擬態語・擬音語

ページ	『源氏物語』(向田邦子 TBS テレビ 1980.1.3) 新潮社
13 じっ	御簾のかげでじっと見つめ見送る藤壺
さっ	それより早く、さっとおりる御簾
16 じっ	じっとしている藤壺
19 グサリ	ときどき、矢がグサリと、このあたりに突き刺さり
22 クックッ	うしろで、クックッと...が笑っている。
22 ぞっこん	あなたにぞっこんなのだ。

63 ぼんやり　厨子王はなんとも思い定め兼ねて
　　ぼんやり附いて降りる。
71 ほうやれほ　安壽戀しや、ほうやれほ。
　ほうやれほ　厨子王戀しや、ほうやれほ。
　うっとり　正道はうっとりとなって此詞に聞き惚れた。
　ぢっ　見えぬ目でぢっと前を見た。
　ぴったり　二人はぴったり抱き合った。

24 ぶらぶら 所在なさそうにぶらぶらしている惟光…
25 そっ 源氏のうしろから、汗を拭く惟光、…そっと退く。
26 ごくり …王命婦のこわばった顔、のどがごくりと鳴る。
32 わらわら　高熱を発し、わらわらと体がふるえる。
39 チラリ　チラリと主の顔を見る
40 キチン　心憎いほどキチンとした身のこなしで迎える…

(9)　Table 9『こころ』の擬態語・擬音語

ページ	『こころ』夏目漱石　新潮社
8 ごちゃごちゃ	海の中が銭湯の様に黒い頭でごちゃごちゃしている事もあった。
9 すぽり	純粋の日本の浴衣を着ていた彼は、それを床の上にすぽりと放り出したまま、
10 わいわい	遠浅の磯近くにわいわい騒いでいる事もあった。
11 さっさ	さっさと何処へか行ってしまった。
さっさ	さっさと海から上がって来て…
ぎらぎら	青空の色がぎらぎらと目を射るように通例
12 にやにや	にやにや笑っている先生の顔を見た時…
16 すっかり	この木がすっかり黄葉する。
ぶらぶら	ぶらぶら一所に歩いて行った。
ばらばら	つまり二人はばらばらに…
18 ちょっ	心臓の潮流を一寸鈍らせた。
22 ばらばら	つまり二人はばらばらになっていた。
25 そわそわ	妙に私の様子をそわそわさせた。
36 ひっそり	家の中は何時もの通りひっそりしていた。

(10)　Table 10　日本文学作品に見られる擬態語・擬音語(283)

作品名	出版年	擬態語+擬音語数	英訳されていない語句	Table	訳者	作家
伊豆の踊子（伊）	大正 15	28 +3=31	-8 (25%)	1	サイデンステッカー	川端康成
雪国（雪）	昭和 10	41 +1=42	-7 (17%)	2	サイデンステッカー	川端康成
吾輩は猫である（吾）	明治 38	39+8= 47	-3 (6%)	3	ウイルソン	夏目漱石
金閣寺（金）	昭和 31	18 + 0=18	0	4	モーリス	三島由紀夫
唖むすめ（唖）・犬	昭和 14,29	33 +3=36	-7 (19%)	5	ホルバト	安部公房
銀河鉄道の夜（銀）	昭和 8(未)	65+6=71	0	6	ベスター	宮沢賢治
山椒大夫	大正 4	12 +0 =12	/	7		森鴎外
源氏物語（源）		12 +0=12	/	8	向田邦子・紫式部	
こころ（こ）	大正 3	14 +0=14	/	9		夏目漱石

3. 擬態語・擬音語の作品に及ぼす研究

3.1 同一作家による二作品における擬態語・擬音語の特色

3.1.1 漱石（『吾輩は猫である』(『吾』)、『こころ』『こ』）の文体の変化

a. 漱石の文体が創作活動の期間 12 年間ほどの短い間に大きく変ったことを岡村（242）が述べている。擬態語・擬音語の場合も変化があるかどうか調べてみる。(10) Table 10 で見られるように、それらの使用数が 47(『吾』) と 14(『こ』)、後者は三分の一になっていて変化がある。『吾』は漱石の処女作である。猫に仮託した気のきいた風刺で、いろんな事件を滑稽に描いている。擬態語・擬音語の使用が童話を除いて他の小説より一番多い。漱石の初期の小説のムードは、庶民的笑い、反骨精神などで、この擬態語・擬音語も初期の小説の文体に貢献していると言えよう。

もう一つの漱石の後期の作品『こころ』は、則天去私を予感させ、人間探求という心理的傾向を帯びており、エゴイズムの生む悲劇を巧みな構成で描いている。擬態語・擬音語の使用は (9)Table 9 にある様に背景をさらに効果的に浮かび上がらせる役目をおっている。

b.『吾輩は猫である』の翻訳者ウィルソンは大抵の擬態語・擬音語を英訳している。6%にあたる次の語は英訳していない：けらけら（笑っている）、一寸（失敬して）、エヘヘヘ。

(10)Table10 より擬音語が他の作品より多いのが特徴である。

3.1.2 川端康成（『伊豆の踊子』、『雪国』）の文体

a. 夏目漱石の二作品の文体の関係と川端康成の二作品の文体の関係

川端の場合も『伊豆の踊子』と『雪国』の作品におよそ 10 年の隔たりがあるのは漱石の二作品と同じだが、川端の二作品は旅情、青春の危機感からの脱出、孤児根性というテーマが共通なのでテーマが変化した漱石とは違う。擬態語・擬音語の使用が、従って、川端の二作品は似ている。作家のテーマにそって擬態語・擬音語が使用され、各作家の文体を決める役を担っている。

川端が数え年 20 歳、大正 7 年伊豆へ初めて旅し、旅芸人と道連れになり、その後 10 年間は毎年のように伊豆の湯ケ原へ行った。他に大正 10 年の 16 歳の少女との恋の余韻が、この 14 歳の踊子への思慕を書き綴ったのが『伊豆の踊子』（(大正 15 年）である。『雪国』の方は、無為徒食の島村と雪国芸者駒子及び美少女葉子が繰広げる物語である。最後に葉子が飛び降りる雪中火事の場面以外事件らしい事件はなく雪国の風物も描き出されている。川端の場合、叙情的文体と言っても幼少のときより家族・遠縁者たちの死にあっていて無常を含む感情のほとばしりがあるので、(10)Table10 を見るとちょうど漱石の二作品の中間ぐらいの擬態語・擬音語の数になっている。

b.翻訳者のサイデンスティッカーは、川端の作品の内容、技巧や小説へ向かう姿勢が、異国趣味と同時に西洋の人々に受け入れられたと書いている。その川端の文章の洗練さを彼は英訳に失わないようにしている。彼は原文を省略している。たとえば ① 地名などの固有名詞の省略、② 数文から一文にする ③1 行から 10 数行抜かす④イメージを西洋のと比べて省略する。英訳されなかった擬態語・擬音語は、ぽつぽつ、ぽきん、ととんとんとん、ぼんやり、ほうっ、ぽつりぽつり、こつんが『伊豆の踊子』に 25%で一番多く、ごろごろ、ぽっ、すっかり、ほうっ、ばたり、ふい、ふっが『雪国』に 17%例がある。

サイデンスティッカーは、「ことこと笑う」（『伊』）を “I laughed happily.”、「ことこと笑い続けた」を “I laughed on a soft, happy life.” に訳している。『伊豆の踊子』のイメージを擬態語・擬音語で言うとするなら、ぽろぽろ（濡れ）、（涙が）ぽろぽろ、（涙）がぽたぽたなど最後の美しくほのかな哀しい別れの象徴である。

3.2 安部公房（『唖むすめ』昭和 24 年、『犬』昭和 29 年）の文体

安部公房の短編『唖むすめ』、『犬』の中の擬態語・擬音語は川端の作品とほぼ頻出度が同じであった。また、ホルバトの英訳のそれらの語は 19%も省略されている。大男が地上にやって来て娘の所へ入り込む過程を、ぐるぐる(round),くるくる（round）,すっ(short),さっ(suddenly)、さらっ(light),ふっ(drift)で盛り上げる。

3.3 三島由紀夫の文体—『金閣寺』

三島は僧が金閣寺を焼いたという事件だけを借りて、自分の美の概念を例証し、哲学的な小説へと考え出している。金閣寺を歴史的に詳しく説明しているが、このような所は

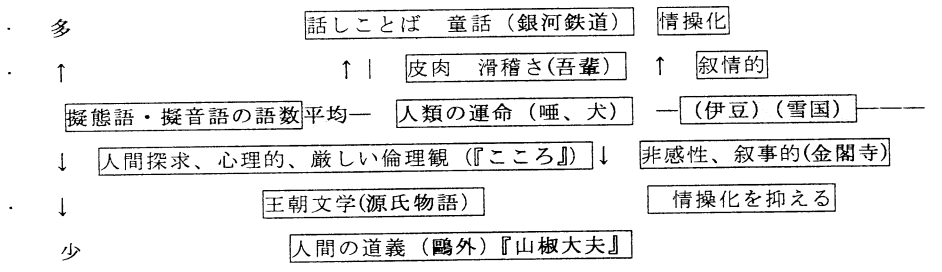
擬態語・擬音語が全く使われていない。擬態語・擬音語の使用が一番少ない。三島の文章は、「非感性的な美」を追求し、王朝文学の情念を入れているという点からも擬態語・擬音語の使用が少なくなると思われる。源氏物語を王朝物語として向田邦子の現代訳でそれらの語を調べてみると(10)Table 10, (8)Table 8 にあるように大変少ない。少ない擬態語・擬音語は緊迫した場面と滑稽味の強い場面に使われている。三島は擬態語・擬音語を意識して使っている。なぜなら三島は、「鷗外は、擬態語・擬音語・感覚語をあまり用いない」と指摘していることからである（時枝他、1963:244)。森鷗外の『山椒大夫』（大正４年）を調べると(10)Table 10, (8)Table7 に見られるように、擬態語・擬音語が非常に少ない。鷗外は山椒大夫伝説に触れて、「おおよそ筋をたどって、勝手に想像して書いた地の文はこれまで書き慣れた口語体、対話は現代の東京語で、山岡大夫や山椒大夫の口吻に少し古びを付けただけである。」と述べている。安寿の生き方に託して犠牲をあえてする人間の道義のけなげな美しさが表れている作品である。漱石の『こころ』が厳しい倫理観を追求しているが、これと同じようにそれらの語の使用が、源氏物語と同様少なくして、味を出している(11)Table 11。モーリスは公房の訳者ホルバトとは違って、英訳するとき、擬態語・擬音語の省略をこの『金閣寺』ではしていない。「一寸」は even a little,「じっ（と）」steadily,「ぼんやり」は absently,「じたばた」は struggle, try に訳している。

3.4 宮沢賢治の文体―『銀河鉄道の夜』

童話の場合は小説と比べて擬態語・擬音語はどうであろうか。(10)Table 10 や(7)Table 6 で示すように小説の擬態語・擬音語の倍ほどの量が童話『銀河鉄道の夜』に出てきた。調べた所の内容は主人公のジョバンニとカムパネルラが授業で銀河を習った夜、銀河のお祭りの日に、汽車で銀河を走って帰ってくる話である。賢治の祖父が作った軽便鉄道に思いをはせ、「ごとごとごとごと」（clatter）という音を使い、擬態語として夜にぼんやり輝く美しい銀河に「ぼんやり」「ぼうっ」「ぼう」「ぽう」などと 15 回使い（vaguely, blur(red), pale, absently, loom, sink, linger），そして「ちらちら」（twinkle），「ピカッ」（glint），「ぴかぴか」(gleam),「ペカペカ」（indistinctly）,「ぎらっ」(glint) と星座の輝きを表し、子供たちのまじめな日常を描いている。口語体の多い児童文学では、このように擬態語・擬音語が豊富に使われる。

4. 擬態語・擬音語の作品の主題への役割とそれらの語の量の関係

(11)　Table 11 擬態語・擬音語の作品の主題への役割とそれらの語の量の関係



以上擬態語・擬音語は、作家の文体を考える上で、上記の(11)Table 11 のようにその作品の主題に重要な役割を演じている。そしてそれらは受け取る人に直感的にあるイメージを想起させる効果を持つ。

引証資料

Chomsky, Noam and Morris Halle. 1995. *The Sound Pattern of English* 1968. Cambridge MIT P.
ドナルド・キーン. 1985.『日本から世界へ』東京：サイマル.
Fromkin, Victoria & Robert Rodman. 1980. *An Introduction to Language*. New York: Holt.
筧寿雄・田守育啓. 1993.『オノマトピア』東京：勁草書房.
長谷川泉. 1970.「余情余韻を生む推敲—川端康成—」『文章の技法１．文章の生態』明治書院.
林栄一・小泉保共編. 1995.『言語学の潮流』東京：勁草書房.
稗島一郎. 1991.『言葉の意味』東京：ぎょうせい.
日向茂男. 1991.『擬音語・擬態語の読本』東京：小学館.
井上和子・原田かづ子・阿部泰明. 1999.『生成言語学入門』大修館書店.
金田一春彦. 1982.「日本語のしくみ」『日本語セミナー2』東京：筑摩書房.
松田徳一郎(監修). 1997.『漫画で楽しむ英語擬音語辞典』1994. 東京：研究社.
森岡健二. 1982.『講座日本語学４語彙史』東京：明治書院.
尾野秀一(編). 1984.『日英擬音・擬態語活用辞典』東京：北星堂.
サイデンスティッカー. 1969.「川端文学と西欧」『川端康成全集』月報１（第五巻附録）東京：新潮社.
柴田武. 1988.『語彙論の方法』東京：三省堂.
新川忠. 1991.「副詞と動詞とのくみあわせ試論」『言語の研究』東京：むぎ書房.
鈴木雅子. 1984.「6擬声語・擬音語・擬態語」『研究資料日本文法 4』鈴木一彦・林巨樹編.明治書院.
田守育啓・ローレンス・スコウラップ. 1999.『オノマトペ—形態と意味—』東京：くろしお.
時枝誠記・遠藤嘉基. 1963.『講座現代語第５巻　文章と文体』東京：明治書院.
山口仲美. 2003.『暮らしのことば擬音・擬態語辞典』東京：講談社.
山中桂一. 1985.「新しい詩学」『英語学コース４意味論・文体論』東京：大修館.

出典一覧（　　）内は省略。

『伊豆の踊り子』（伊）1968.川端康成　原書房・講談社　E.G.Seidensticker 原書房 Tuttle
『雪国』（雪）　1964. 川端康成　新潮文庫　Edward.G.Seidensticker　Tuttle 1996.
『我輩は猫である』（吾）1960. 夏目漱石 岩波文庫 Aiko Ito & Graene Wilson　Tuttle 1996
『金閣寺』（金）　三島由紀夫　新潮社　Ivan Morris　Tuttle
『唖むすめ・犬』（唖）（犬）1973. 安部公房　原書房　Andrew Horvat　原書房
『銀河鉄道の夜』（銀）宮沢賢治 1996. 角川書店・講談社インターナショナル John Bester
『山椒大夫』 1992. 森鴎外　新潮文庫/『源氏物語』 紫式部　向田邦子
『こころ』 夏目漱石　新潮社

＊　擬音・擬態語の範囲と特定には上記の日向(1991)、尾野(1984)と山口(2003)を参考にした。

＊　筆者が『伊』『雪』の両作品の擬態語・擬音語について英訳者にお尋ねする機会があった。「かなりあるでしょ」と言われ私の調べたデーターと同じであると確信した。下のはそのときサインをいただいたものである。1997年１、２月にまとめた論文を女学院大学大学院比較言語研究の指導教授原野昇先生に提出していたコピーを持って、７月に比治山大学でサイデンスティッカー先生にお会いできるチャンスに恵まれ、其のうち小林泰秀教授にご指導を受けたことなどすべてに感謝します。

Edward Seidensticker

No. 3
Date

July, 1997 Table 1